

比較家族史学会第12回研究大会

昭和62年11月14日（土）・15日（日）の両日、愛知県の日本福祉大学において比較家族史学会（会長：永原慶二）第12回研究大会が開催された。

大会第1日目には、まず、公開講演「日本家族の源流をたずねて」（江守五夫）が行われ、ひきつづき、今年度のテーマである「〈老い〉の比較家族史」について、「人口学からみた老人」（伊藤達也）、「文化人類学からみた老人」（片多順）、「中国人の老人観」（浅井敦）、「韓国家族における老人」（竹田旦）、「ウィーン下町における老人生活」（依田精一）、「ソ連の老親扶養」（稲子宣子）、「これからの日本の老人問題」（高橋博子）の報告で第1日目を終了した。

第2日目は、「翁の思想」（山折哲雄）、「中世家族における家父長と隠居」（飯沼賢司）、「江戸時代における老人問題」（大竹秀男）、「日本法における老人観」（橋本宏子）、「農民の隠居制度」（武井正臣）、「リハビリテーションから見た障害老人の『自立』」（二木立）の報告が行われ、これらの諸報告をめぐって様々な議論が展開された。

二日間にわたる報告と討論を通じて「老い」ないし「老人観」について様々な学問分野でかなりの研究蓄積が存在することを痛感した。筆者（清水）が、今大会に出席して得た最大の収穫はこの点につきるといっても過言ではない。

（清水浩昭記）

日本人口学会関東地域部会の発足

日本人口学会関東部会は昭和62年6月神戸大学で開催された同学会の第39回大会において承認され発足し（岡田実理事担当）、第1回研究報告会が昭和62年11月28日（土）午後2時～5時明治大学会館5階にて開催され、非会員を含め32名が出席した。岡田実理事の進行により開会され、畑井義隆会長挨拶のあと、研究発表は岡崎陽一座長（日本大学）のもとで以下の通り行われた。

1. 平均余命の男女差 大塚友美（日本大学人口研究所）
2. 人口高齢化における子供と老人の幸福 河野稠果（厚生省人口問題研究所）

（廣嶋清志記）

国際人口学会「先進国における家族生活の新しい諸形態」セミナー

国際人口学会（IUSSP）のひとつの委員会である「家族人口学とライフサイクルに関する委員会」は1982年設置され、家族人口学の形式人口学の開発にあっていた（委員長 John Bongaarts：オランダ）が、1985年からは家族人口学の実質的な側面に焦点を当てている（委員長 Elza Belquo：ブラジル）。この委員会は本年1月5～7日のセミナー Changing family structures and life courses in LDCs に引き続き、10月6～9日フランス国立人口研究所（INED）との共催で、フランスパリ郊外の Vaucresson 市で標記（New forms of familial life in MDCs）のセミナーを開いた。本研究所から廣嶋清志技官が出席したが、他に米国へ留学中の小島宏技官が spontaneous paper を提出し、出席した。セミナーの内容は下記の通りである。このセミナーのテーマが family structure でなく forms of familial life となっているのは、欧米では離婚や同棲などが増大することによって家族の生活が複雑化し、家族の範囲を設定することが容易ではなくなってきたことを反映している。なお、本セミナーに提出された論文は Oxford 大出版部から本として刊行される予定である。